

# NISSHA

## Nissha Today

第103期 中間報告書

2021年1月1日—2021年6月30日

EMPOWERING  
YOUR VISION



NISSHA株式会社

証券コード 7915

社長メッセージ	01
トピックス	04
特集 メディカルテクノロジー事業を次の成長の柱に	05
業績ハイライト	07
トピックス	08
会社概要/株式の状況	09
コミュニケーション	10

## 社長メッセージ

株主のみなさまには平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜りお礼申し上げます。  
2021年12月期第2四半期(累計)の実績と今後の見通しについて、  
代表取締役社長 兼 最高経営責任者の鈴木順也よりご説明申し上げます。



株主のみなさまには平素より  
格別のご高配をたまわり  
厚くお礼申し上げます。

鈴木順也

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

### 2021年12月期第2四半期の経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるグローバル経済情勢は、長期化する新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により厳しい状況にあったものの、経済活動の段階的な再開に伴い、景気は持ち直しの傾向となりました。アメリカやヨーロッパでは、ワクチン接種の進展や追加の経済対策などを背景に、景気回復が進みました。中国では、景気の緩やかな回復基調が持続しました。わが国の経済については、一部で景気の弱さが見られたものの、輸出の増加を受けて生産が向上となったことなどにより、景気持ち直しの動きが続きました。

このような状況の下、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、デバイス事業では季節的な変動なく、IT機器

や産業用端末(物流関連)などを中心に力強い製品需要が続きました。産業資材事業では、モビリティ(自動車・輸送機器)やサステナブル資材などの市場向けを中心に旺盛な製品需要となりました。メディカルテクノロジー事業では、COVID-19により減少した製品需要の回復基調が持続しました。堅調な製品需要に加え、従来から取り組んできた収益構造の改善などにより、営業利益は前年同四半期比で大幅に改善しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は975億84百万円(前年同四半期比26.5%増)、利益面では営業利益は108億30百万円(前年同四半期比は5億50百万円の営業損失)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は105億87百万円(前年同四半期比2,097.3%増)となりました。

## 2021年12月期第2四半期(累計)業績のポイント(IFRS)

<b>売上高</b>	<b>営業利益</b>	<b>親会社の所有者に帰属する 四半期利益</b>	<b>中間配当金</b>
975億円 前年同四半期比26.5%増	108億円 (営業利益率11.1%)	105億円	1株当たり15円

### 2021年12月期通期の見通し

通期の業績予想につきまして、当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえたうえで、最新の製品需要の動向などを考慮しました。売上高は、産業資材事業のモビリティ向けや蒸着紙、デバイス事業のIT機器向けなどの製品需要が前回の想定を上回って推移する見通しです。

営業利益、税引前利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、売上高の増加の影響に加え、当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえた収益性の見直しなどにより、前回予想を上回る見通しです。

以上のことから、通期業績予想を売上高は1,865億円、営業利益は170億円に修正いたしました。なお、為替レートは、1ドル=105円を前提としています。

### 第7次中期経営計画について

当社グループは、2021年から2023年までの3カ年を対象とした第7次中期経営計画を運用しています。これまでに

獲得・構築したグローバルベースの事業基盤を最大限に活用し、シナジーの最大化による成長基盤を確立することを目指しています。これまで業績を牽引してきたIT機器市場において収益性・効率性を追求する一方で、非IT分野の医療機器、モビリティ(自動車・輸送機器)、サステナブル資材の重点3市場において、社会課題の解決に資する製品群・サービスの拡充による成長を目指しています。定量的なビジョンとして、第7次中期経営計画の最終年度にあたる2023年に連結売上高1,950億円、営業利益120億円、ROE9.0%以上、3年間累計の営業キャッシュ・フロー435億円を目指しています。

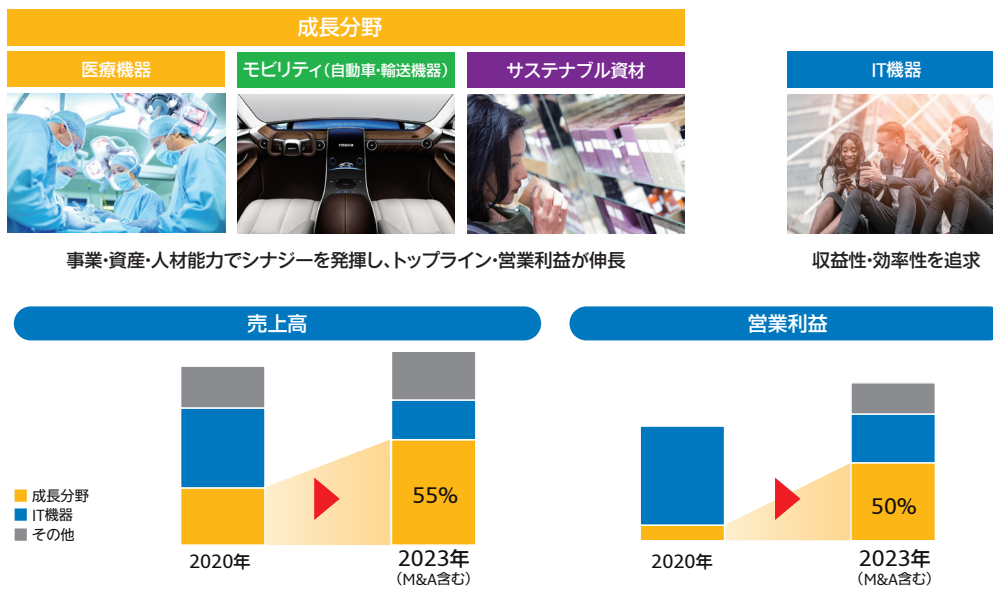
第7次中期経営計画をスタートして半年が経ちましたが、医療機器市場では新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けて減少していた製品需要が回復が続いています。また、2020年11月に買収した医療機器の製造工場(アメリカ・オハイオ州)のPMI(買収後の統合プロセス)を確実に進めています。獲得した能力を活用し、新たな開発製造受託

### 2021年12月通期業績予想(IFRS)

(百万円)

	2020年12月期 (実績)	2021年12月期 (2021年8月5日発表)	事業別売上高	
売上高	180,006	186,500	産業資材	58,400
営業利益	7,290	17,000	デバイス	96,000
税引前利益	7,051	18,000	メディカルテクノロジー	24,200
親会社の所有者に帰属する 当期利益	7,069	15,200	その他	7,900
基本的1株当たり当期利益(円)	141.50	305.30		

## 第7次中期経営計画 定性ビジョン: グローバルシナジーを加速、成長基盤を確立



(CDMO※)の案件が増加するなどの進展がありました。モビリティ市場では、車載ディスプレイ向けに複数の新しい案件でフィルムタッチセンサーの供給が開始されました。また、サステナブル資材市場では、パルプなどを原料とした生分解性材料を射出成形してパッケージ製品を供給する事業で、医薬品の包装資材として量産が始まりました。パルプファイバー材料の成形技術を日本で確立させて量産が始まりましたが、今後は当社のドイツ拠点においても量産を行う予定です。グローバルに展開する生産拠点間のシナジーにより、サステナブル資材の拡大を推進していきます。

### 配当について

当社は、株主のみなさまへの利益配分につきましては、安定配当の継続を基本方針に、当期および今後の業績、配当性向、財務面での健全性などを総合的に勘案して配分するこ

ととしています。2021年12月期の中間配当金は1株につき15円とさせていただきます。2021年12月期の期末配当については、1株につき15円(年間配当金1株当たり30円)の予想としています。

### 最後に

当社グループのMissionは「人材能力とコア技術の多様性」を成長の原動力に、高い競争力を有した特徴ある製品・サービスの創出により、お客さま価値を実現し、「人々の豊かな生活」の実現に寄与することを掲げています。このMissionのもと、中期経営計画の達成により、企業価値の向上を目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、当社グループの今後の成長に向けて、格段のご支援・ご鞭撻をたまわりますよう、よろしく願い申し上げます。

※CDMO: Contract Design/Development and Manufacturing Organization 医療機器の設計・開発から製造までの一連の工程を手がける。

## トピックス

### リバーフィールドと資本業務提携

当社は、2021年6月30日に、手術支援ロボットなどの医療機器研究開発・販売を手掛けるベンチャー企業リバーフィールド株式会社との資本業務提携を締結しました。

当社のメディカルテクノロジー事業では、低侵襲医療機器の開発製造受託(CDMO)を成長分野の一つと位置付けており、手術支援ロボットの市場拡大を事業機会の一つと捉えています。

今回の資本業務提携によって市場ニーズに関する知見を深め、手術支援ロボット向けの基幹部品の開発製造受託などの今後の事業展開に生かしていきます。



リバーフィールドが製造・販売する内視鏡ホルミウムロボット「EMARO」



手術支援ロボット(イメージ)

### サステナブル資材のラインアップを拡充

産業資材事業では、プラスチックフリーのサステナブル資材として、金属光沢とリサイクル性を兼ね備えた蒸着紙に加えて、植物由来の材料を用いた環境にやさしい成形品を展開しています。成形品については、材料や工法のラインアップの拡充を進めており、2021年夏には国内に続き欧州での生産を開始します。



新幹線京都駅プラットフォーム(東京方面)の看板広告(2021年7月~)

### CO2の削減目標を30%に上方修正

2050年のカーボンニュートラルに向け世界的にCO2削減目標数値が引き上げられる中、当社グループは2030年のCO2総排出量の削減目標を従来の20%削減(2020年比)から30%削減に上方修正しました。

目標達成に向け、オフィスでの照明機器の変更や生産拠点の生産性向上による省電力化、太陽光などの代替エネルギー利用推進などを進めています。



当社グループ中国拠点の太陽光パネル

### DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

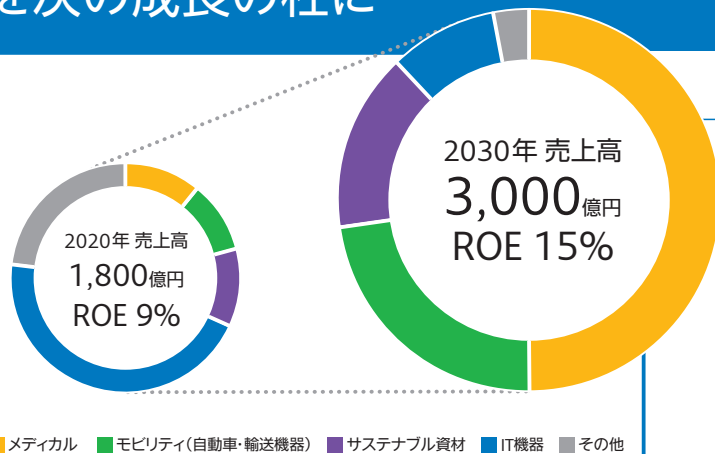
当社では、DX担当役員のリーダーシップのもと、自社の生産性やお客さまへの付加価値の向上に資するデジタル技術を積極的に活用しており、2021年8月に経済産業省が定める「DX認定取得事業者」に認定されました。生産部門ではロボットによる省人化やAIによる外観検査、開発部門では設計データベースを活用した設計の自動化、営業部門ではマーケティングや営業活動の効率化などの取り組みを具体的に進めています。



## サステナビリティビジョン

メディカル分野の事業で売上高1,500億円を目指す

当社では2030年のあるべき姿をサステナビリティビジョン(長期ビジョン)として示しています。多様な技術や人材能力の結集・融合により、メディカル・モビリティ・環境に関わるグローバルな社会課題の解決に貢献し人々の豊かな生活を実現することを目指しており、売上高3,000億円規模、そのうち1,500億円をメディカル分野とすることを掲げています。



### アメリカを中心に事業展開

当社は2016年、次の成長分野として医療機器市場への参入を果たしました。医療機器市場への参入は、お客さまへの短期間でのリーチや、医療機器に関する法律や業界慣行への対応などのために、医療の最先進国であり、最大市場のアメリカで企業買収という形で果たしました。そのため、当社のメディカルテクノロジー事業は、本拠地があるアメリカを主力市場とし、ヨーロッパにも事業基盤を確立しています。

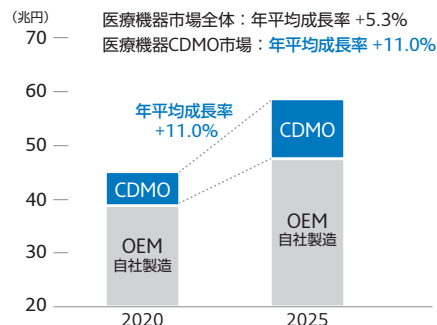
### 医療機器CDMO市場の成長率が高い

医療機器市場は、高齢化の進行、急性・慢性疾患の増加、医療従事者の不足、感染症への対応、医療財政の持続性などの社会課題に大きく関係しています。現在、医療の視点が診断・治療中心から予防・予後を含むケアサイクル全般に広がっており、また医療が行われる場所が病院だけでなく在宅に、そして医療対価の対象が医療の行為からその結果に移行する動きが見られます。これらをサポートする医療機器へのニーズは変化していくと見られ、低侵襲など患者の負担を軽

減する技術、在宅・遠隔で健康状態の把握・維持、ロボット技術などによる医療行為の効率化・省力化、AI・IoT・センシング技術などの導入が進むと考えられます。このような動きを前提に、世界の医療機器市場の成長は加速すると予想しています。

また近年、当社のお客さまであるグローバル医療機器メーカーは研究開発やマーケティング活動に経営資源を集中さ

### グローバル医療機器市場におけるCDMOの割合



出所: Transparency Market Research  
「Medical Device Contract Manufacturing Market」に基づき当社調べ

せ、製品の設計、開発、検証、製造を外部へと委託する傾向を強めており、医療機器の開発製造受託（CDMO※）市場の成長率は高まることが期待されます。当社はこの傾向を事業機会と捉え医療機器CDMO分野を成長の柱として強化していく戦略を構築しています。

### 当社のコア技術を医療機器に活用、 付加価値の高い製品・サービスの展開を目指す

CDMOでの当社の主力製品は低侵襲・急性期医療向けシングルユースの手術機器や医療用の患者のモニタリング機器です。低侵襲医療用の手術機器には切除、把持、縫合など

に使用する腹腔鏡手術向けの処置具や腹腔鏡のほか、エネルギーデバイスの周辺機器として、ケーブル、対極板などの製品を取り扱っています。患者のモニタリング機器は、糖尿病患者などを常時モニターするための常時モニタリング機器、心臓や動脈の血栓の有無などを診断する際に使用される心臓マッピング機器、さまざまな検査に使用される心電用電極などがあります。これらの製品にはNISSHAの成形、金属加工、パターンニング、ラミネーションといったコア技術が貢献しています。今後は医療機器の進化に合わせて医療ロボティクスやスマートデバイスなどのより付加価値の高い医療機器向けCDMOサービスを展開していきたいと考えています。

#### 低侵襲医療用の手術機器

求められる機能

- 小型化
- 操作性
- センサー機能

活用されているコア技術

- 金属加工
- 成形



腹腔鏡手術向け処置具  
(切除・把持・縫合)



エネルギーデバイス用周辺機器  
(ケーブル、対極板など)



腹腔鏡

現在

#### 患者のモニタリング機器 (医療用)

求められる機能

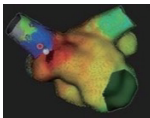
- 小型化・薄型化
- センサー機能
- 通信機能

活用されているコア技術

- パターンニング
- ラミネーション



常時モニタリング



マッピング用電極



心電用電極

将来

#### ロボティクス



#### スマートデバイス

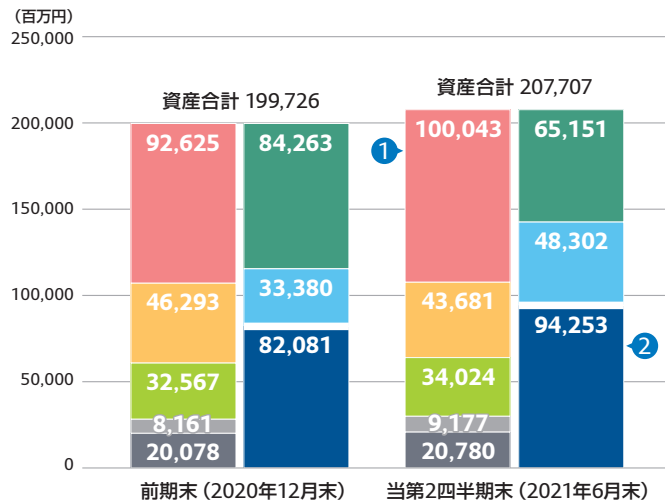


※CDMO: Contract Design/Development and Manufacturing Organization 医療機器の設計・開発から製造までの一連の工程を手がける。

# 2021年12月期第2四半期(累計) 業績ハイライト(IFRS)

## 要約四半期連結財政状態計算書

■ 流動資産 ■ 有形固定資産 ■ 無形資産+のれん  
■ 使用権資産 ■ その他の金融資産他  
■ 流動負債 ■ 非流動負債 ■ 資本

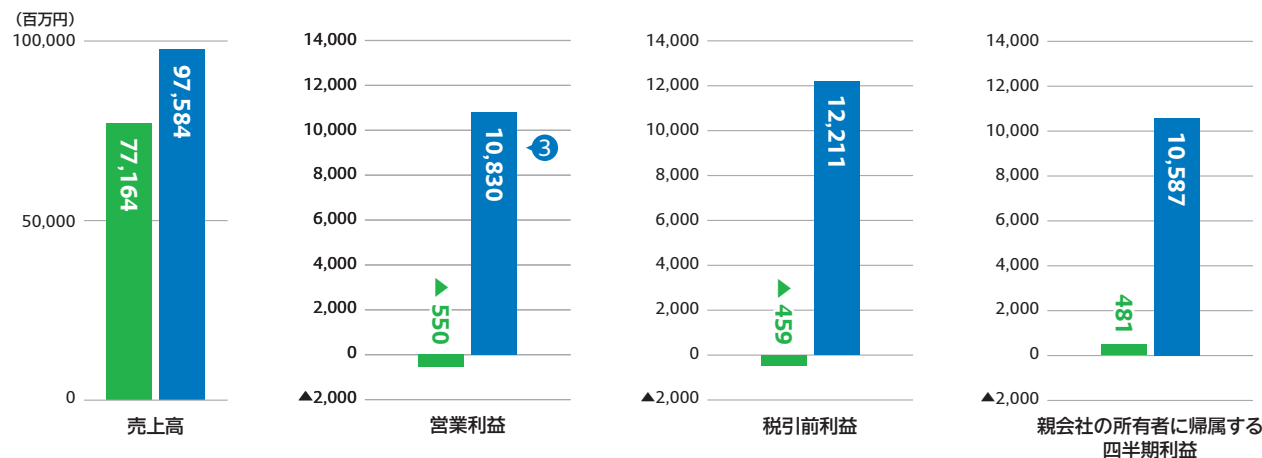


## POINT

- ① 流動資産は1,000億43百万円となり、前連結会計年度末に比べ74億18百万円増加しました。主な要因は、営業債権及びその他の債権が22億1百万円減少した一方で、現金及び現金同等物が68億1百万円、棚卸資産が30億19百万円増加したこと等によるものです。
- ② 資本は942億53百万円となり、前連結会計年度末に比べ121億71百万円増加しました。主な要因は、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上等により利益剰余金が97億88百万円、為替換算等の影響によりその他の資本の構成要素が27億8百万円増加したこと等によるものです。
- ③ 堅調な製品需要に加え、従来から取り組んできた収益構造の改善などにより、営業利益は前年同四半期比で大幅に改善しました。

## 要約四半期連結損益計算書

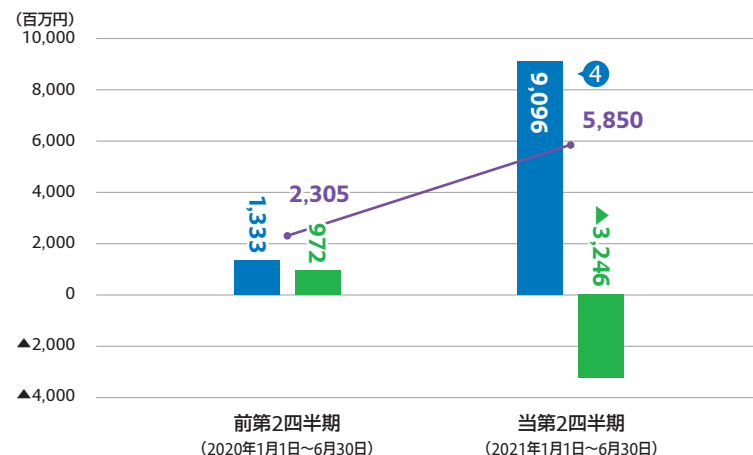
■ 前第2四半期: 2020年1月1日～2020年6月30日  
■ 当第2四半期: 2021年1月1日～2021年6月30日





## 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

■営業CF ■投資CF ●フリーCF



## POINT

- ④ 営業活動の結果得られた資金は90億96百万円（前年同四半期比582.2%増）となりました。これは税引前四半期利益122億11百万円の計上に対して、主に営業債務及びその他の債務の減少額として40億48百万円、法人所得税の支払として24億円計上した一方、減価償却費及び償却費として46億23百万円計上したこと等によるものです。

## 事業別の業績

産業資材	デバイス	メディカルテクノロジー
<p><b>売上高</b> 29,866百万円 ➡ (前年同四半期比33.3%増)</p> <p><b>営業利益</b> 2,778百万円 ➡ (前年同四半期は▲35百万円)</p> <p>加飾分野のモビリティ・家電向けや、サステナブル資材分野の蒸着紙の製品需要が力強く推移し、売上高は前年同四半期比で大幅に増加しました。製品需要の増加に加え、収益構造の改善などにより、営業利益は前年同四半期比で大きく改善しました。</p>	<p><b>売上高</b> 52,524百万円 ➡ (前年同四半期比29.4%増)</p> <p><b>営業利益</b> 8,567百万円 ➡ (前年同四半期比667.6%増)</p> <p>スマートフォン向けの製品需要が季節的に急減することなく堅調に推移したことに加え、タブレット向けや産業用端末向けなどで力強い製品需要が継続したことにより、売上高は前年同四半期比で大幅に増加しました。製品需要の持続による生産平準化や収益構造の改善などが寄与し、営業利益は前年同四半期比で大幅に伸長しました。</p>	<p><b>売上高</b> 11,510百万円 ➡ (前年同四半期比11.9%増)</p> <p><b>営業利益</b> 475百万円 ➡ (前年同四半期比32.0%増)</p> <p>COVID-19の影響により減少した開発製造受託(CDMO)やビジネスメディアで、製品需要の回復基調が続きました。</p>

●詳細は当社Webサイト IR情報にてご覧いただけます。 <https://www.nissha.com/ir/index.html>

## 会社概要

商号 NISSHA株式会社  
 創業 1929年10月6日  
 設立 1946年12月28日  
 資本金 121億1,979万円(2021年6月末現在)  
 社員数 単体720人、連結5,384人(2021年6月末現在)  
 拠点数(子会社含む) 国内15カ所  
 海外36カ所(持分法適用会社含まず)

## 役員の状況 (2021年6月末現在)

取締役	代表取締役社長 兼 最高経営責任者	鈴木 順也
	取締役	井ノ上 大輔
	取締役	渡邊 亘
	取締役	西本 裕
	取締役	礪 尚
	取締役(社外)	大杉 和人
	取締役(社外)	安藤 誠
	取締役(社外)	アスリ・ Cholpan
	取締役(社外)	松木 和道
監査役	常勤監査役	野中 康朗
	常勤監査役	谷口 哲也
	監査役(社外)	桃尾 重明
	監査役(社外)	中野 雄介

執行役員	専務執行役員	井ノ上 大輔
	常務執行役員 兼 最高戦略責任者	渡邊 亘
	常務執行役員 兼 最高品質・生産責任者	西本 裕
	常務執行役員	サム・ヘレバ
	上席執行役員	礪 尚
	上席執行役員 兼 最高財務責任者	神谷 均
	上席執行役員 兼 最高技術責任者	面 了明
	上席執行役員	山口 秀則
	上席執行役員 兼 最高情報責任者 兼 最高サプライチェーン責任者	青山 美民
	上席執行役員	杉原 淳
	上席執行役員	ジョルジオ・ボツ
	執行役員	寺下 勝
	執行役員	菅野 武男
	執行役員	奥村 秀三
	執行役員	西川 和宏
	執行役員	青木 哲

## 株式の状況

(2021年6月末現在)

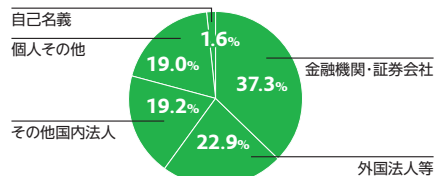
発行可能株式総数 180,000,000株  
 発行済株式の総数 50,855,638株  
 株主数 11,318人

### 大株主

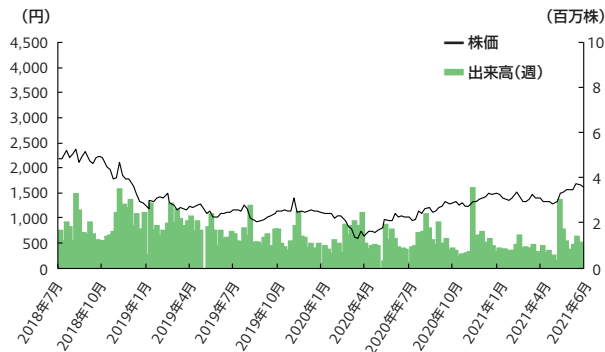
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,137	6.26
鈴木興産株式会社	2,563	5.12
明治安田生命保険相互会社	2,341	4.67
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,117	4.23
株式会社みずほ銀行	2,076	4.14
タイヨー ファンド エルビー	1,806	3.60
株式会社京都銀行	1,442	2.88
タイヨー ハネイ ファンド エルビー	1,295	2.58
ニッシャ共栄会	1,127	2.25
DIC株式会社	905	1.80

※持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しています。

### 所有数別状況(保有株式数比率)



### 株価(2018年7月～2021年6月)



## コミュニケーション

当社では、株主のみなさまとの双方向のコミュニケーションを目指し、年1回アンケートを実施しています。ここでは多くの方からいただいたご意見にお答えいたします。

### ご意見

- NISSHAの株主総会に興味をもち、株主になりました。遠方に住んでいますが機会があれば出席したいと思っています。
- 今年は、コロナウイルス感染症の影響で、NISSHAの株主総会に行けませんでした。

### ご回答

NISSHAは2021年3月の株主総会において、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大防止の観点から、ご来場の自粛をお願いする一方、新たな取り組みとして、できるだけ多くの株主さまに株主総会の様子をご覧いただき、社長の鈴木より当社の業績結果や中長期のビジョンについて直接ご説明させていただく機会を設けるため、株主総会の一部をライブ配信いたしました。

また、当日会場では、座席の間隔を例年より広く確保し、役員と株主さまの席との間にクリアパーテーションを設置するなどの対応とともに、ご来場株主のみなさまにはマスク着用やアルコール消毒にご協力いただきました。

ライブ配信を視聴いただいた多くの株主さまからも「ライブ配信でも臨場感を感じることができた」「オンラインでも問題なく参加できることがわかり有意義でした」などのご感想をいただきました。

当社は株主総会を株主さまと直接コミュニケーションできる貴重な機会と考えており、今後もその取り組みや内容の充実を図ってまいります。



#### アンケートご協力のお願い

株主のみなさまからいただくアンケートへの回答は、当社の経営やIR・SR活動に対する貴重なご意見として参考にさせていただきます。今後ともアンケートにご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 株主メモ

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
各種お手続きの お取扱窓口	お取引の証券会社等/ 特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店
特別口座管理機関 お取扱店	みずほ証券およびみずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝を除く 9:00~17:00)
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行 (みずほ証券では取次のみとなります)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告( <a href="https://www.nissha.com/">https://www.nissha.com/</a> )ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います
上場証券取引所	東京

### ご注意

このNissha Todayに掲載されている情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、そのほか過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性がありますことをご承知おきください。このNissha Todayに掲載されている業績に関する記述は、特に注記がない限り全て連結ベースとなっています。

## IR情報に関するお問い合わせ

### NISSHA株式会社

経営企画部 IRグループ

〒604-8551 京都市中京区壬生花井町3  
tel.075-811-8111(大代表)

## NISSHAの事業

NISSHAは、3つの事業を展開しています。

### ■ 産業資材

さまざまな素材の表面に付加価値を与える独自技術を有する事業です。プラスチックの成形と同時に加飾や機能の付与を行うIMD、IMLおよびIMEは、グローバル市場でモビリティ（自動車・輸送機器）、家電製品などに広く採用されています。また、サステナブル資材として、金属光沢と印刷適性を兼ね備えた蒸着紙や、植物由来の材料を用いた環境にやさしい成形品を提供しています。

### ■ デバイス

精密で機能性を追求した部品・モジュール製品などをお客さまの使いやすい形で提供する事業です。主力製品であるフィルムタッチセンサーはグローバル市場でスマートフォン、タブレット、携帯ゲーム機、産業用端末（物流関連）、モビリティ（自動車・輸送機器）などに幅広く採用されています。このほか、圧力を検知するフォースセンサーや、気体の状態を検知するガスセンサーなどを提供しています。

### ■ メディカルテクノロジー

医療機器やその関連市場において高品質で付加価値の高い製品を提供し、人々の健康で豊かな生活に貢献することを目指す事業です。心疾患向けを中心に幅広い分野で使われる低侵襲医療用の手術機器や医療用ウェアラブルセンサーなどの製品を手がけており、現在はグローバルベースで大手医療機器メーカー向けの開発製造受託（CDMO）を展開するとともに、医療機関向けに自社ブランド製品を製造・販売しています。

その他、情報コミュニケーションや医薬品・化粧品など、さまざまな事業を展開しています。

